

五島（ごとう）の由来

五島の大地は、天竜川から運ばれた大量の土砂で出来た扇状地で、戦国時代以前は葦やガマが生い茂り、ところどころに島や池が点在し、人が住める環境ではなかった。開拓されたのは徳川家康が浜松城に入城（1570年）した頃である。西島・福島・江之島・松島・鶴島の五つの「島（土地）」からなるが、「五島」の名称は、国の町村制施行により明治22年（1889年）、河輪村との連合で五島村が発足してからである。明治29年（1896年）静岡県下郡廃合により、浜名郡五島村が誕生し、役場を西島に設置した。昭和26年（1951年）3月、五島村は新津村、河輪村と共に浜松市に編入された。

西島町（にしじまちょう）

天正2年（1574年）、大杉氏と池田氏が入植。五島で最初に芝切りとなった。文字どおり西島とは天竜川河口の「西の島」ということで、貴船神社を建立し開墾が始まった。中国の明から西島の浜に漂着した林五官は、徳川家康の厚い保護を受け運送業等で活躍した。西島は五島地区の行政の中心となり、明治17年（1884年）五島小学校も創立（平成23年廃校）された。

江之島町（えのしまちょう）

風光明媚で景色が美しい所から付けられた地名で、遠江国江之島の港として多くの船が出入りしていた。引佐郡刑部村から移住して来た内山氏と、長上郡市野村からの集団入植した人たちによって開墾された。江之島町に鎮座する白山神社の建立は元和元年（1615年）である。

福島町（ふくしまちょう）

町名の由来は不明であるが「福のある島であって欲しい」という願いが込められている。承応3年（1654年）、福島の開拓は豊田郡山田村（現在の袋井市）から移り住んだ山田氏によって始められた。明治8年（1875年）英国の貨物船ジェームズ・ペイトン号遭難で、救助にあたった村民たちの勇気ある行動は、「福島」の名を日本だけでなく世界にひろまることになった。

松島町（まつしまちょう）

寛永7年（1630年）、四本松村（現在の四本松町）の豪農鈴木門五左衛門が開発に当たった。さらに二男五左衛門（後に改名して初代松島五右衛門）は五右衛門新田と称して開発を進め、松島新田と改め、寛文7年（1667年）松島村と改名した。名の通り「松」の木々の生い茂る、ふくよかな土地である。

鶴島（つるしま）

江戸時代初期、松島の開拓と合わせて開墾されたが、洪水による堤防の決壊等で多額の費用がかさみ、開発は遅れた。松島五右衛門の尽力により貞享4年（1687年）鶴島村となり、松島村に編入された。由来は鶴が羽を休める穏やかな土地ということだろうが、現在は町名としては残っていない。